

第25講 『 のぼせと冷え 』

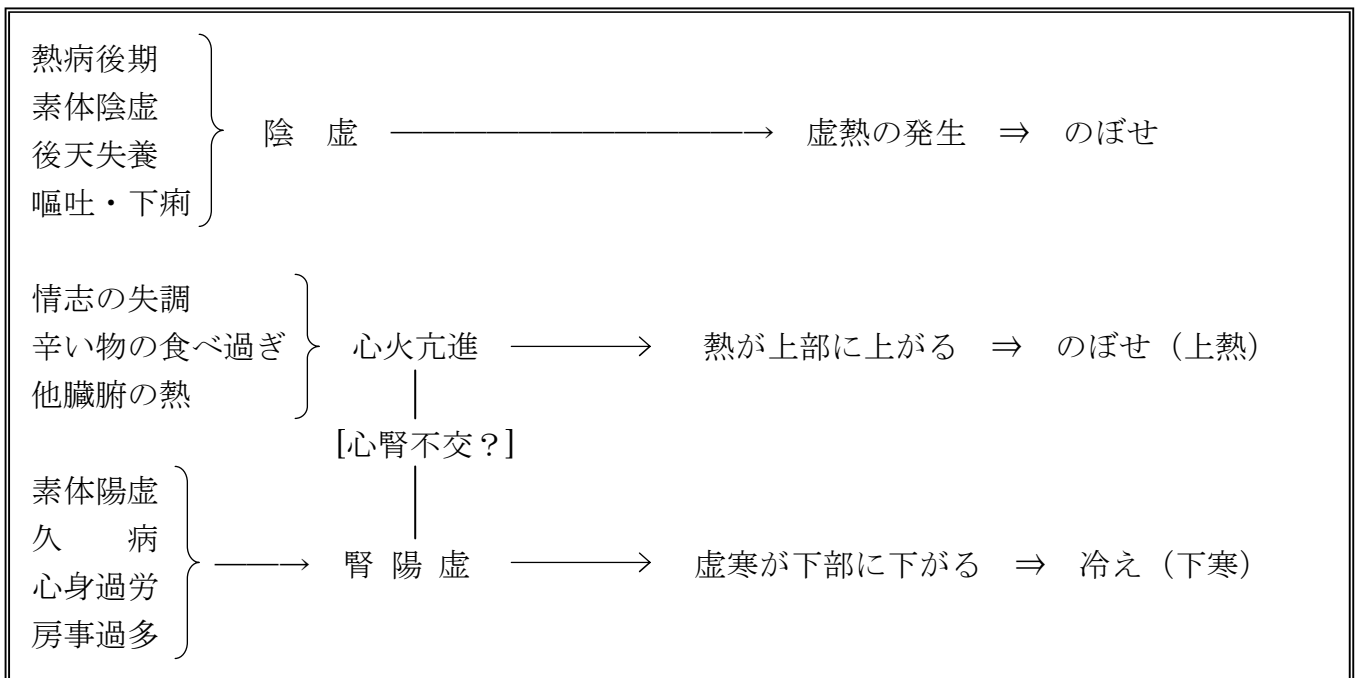
第1節 『 のぼせ 』

: のぼせは女性に多くみられ、顔がほてる、頭がのぼせる、全身がほてる、足がほてるなどを訴える。

また上半身のほてりと下半身の冷えを同時に伴っているものもありこれを「上熱下寒」という。

- 【 分類 】
- * 基本的にのぼせは陰虚による虚熱の症状である。
 - * 「上熱下寒」の多くは心腎不交によるものである。

【 病因病機 】



【 症状と処方例 】

1. 陰虚によるのぼせ

[症 状] 顔・頭・足または全身のほてり・のぼせ。または潮熱、盗汗、五心煩熱を伴う。

舌紅脈細数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太白	脾経	補中生津	足の第1中足指節関節の後、内側陥凹部
足三里	胃経		膝を立て、外膝眼穴の下3寸
三陰交	脾経		内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際
加 失調している臓腑の特定穴			

2. 心腎不交(?)による上熱下寒

[症状] 頭顔面部ののぼせ、腰部・下肢・腹部などの冷え。顔面紅潮、めまい、目の充血、

咽喉部の乾き、口渇、歯痛、腰部の鈍痛、寒がり、小便清長、下痢をするものもある。

舌質紅または舌尖紅、または舌苔少、脈細弱。

[処方例]

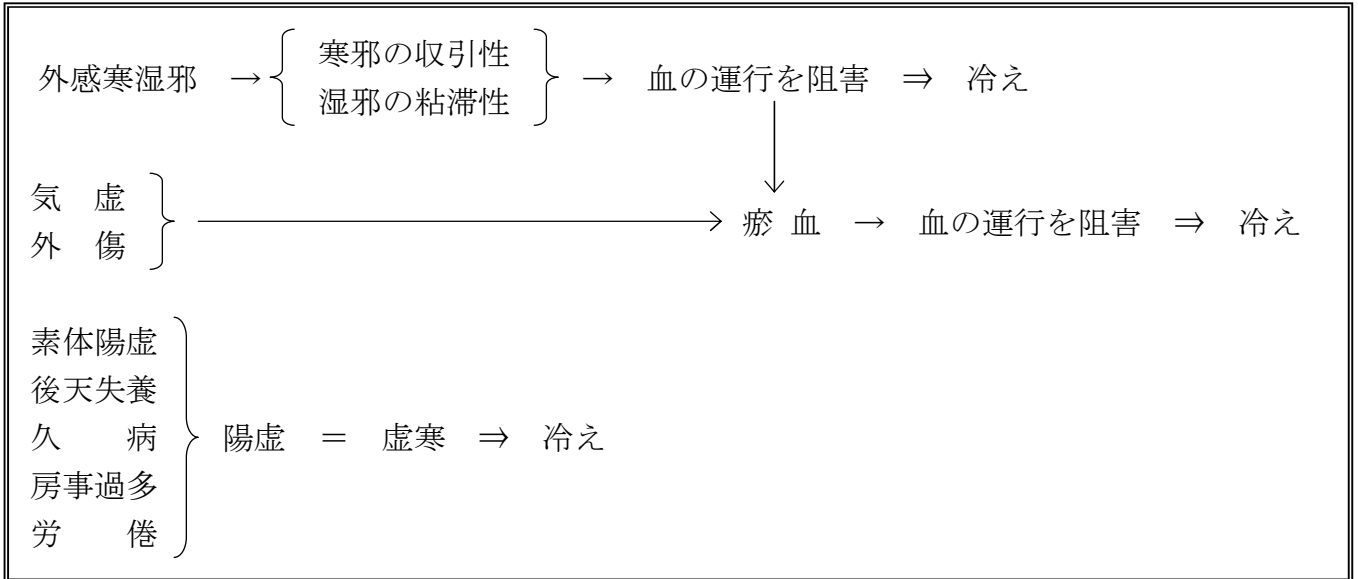
	経絡	意義	取穴部位
神門	心経	清心瀉熱	手関節前面横紋の尺側、豆状骨の上際で尺側手根屈筋腱の橈側
(大陵)	心包経		手関節前面横紋の中央。
内関	心包経		大陵穴から曲沢穴に向かい上2寸
通里	心経		神門穴から少海穴に向かい上1寸
命門	督脈	補腎陽	第2・3腰椎棘突起間
太谿	腎経		内果とアキレス腱の間陥凹部
関元	任脈		前正中線上で臍下3寸

第2節 『 冷え症 』

: 冷え症とは身体の特定部位だけが特に冷たく感じるものをいう。女性に多く見られる。

【 分類 】 { 実 証 : 寒湿、瘀血
 虚 証 : 陽虚

【 病因病機 】



【 症状と処方例 】

1. 寒湿と瘀血

[症 状] 局部(腰部、上下肢、腹部等)の冷え

- * 寒 湿 : 冷えの部位の疼痛 (冷痛、重痛、痛みが顕著)、帯下、体が重い、浮腫 (下肢)、舌淡白膩、脈滑遅。
- * 瘀 血 : 冷えの部位の疼痛 (刺痛、固定性)、月経不順、月経痛、月経血の色は暗紅色で血塊が混じる。舌紫瘀点瘀斑、舌下絡脈、脈洪。

[処方例] 冷えの局所の血の運行を図る目的で近位選穴。

部位	経穴名	経絡	取穴部位
腰背部	至陽	督脈	第7・8胸椎棘突起間
	膈俞	膀胱経	第7・8胸椎棘突起間の外1寸5分
	腎俞	膀胱経	第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
腰仙部	八膠穴	膀胱経	第1～4後仙骨孔部
腹部	膻中	任脈	前正中線上で、両乳頭を結ぶ線が交わる場所
	気海	任脈	前正中線上で、臍下1寸5分
	関元	任脈	前正中線上で、臍下3寸
下肢	三陰交	脾経	内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際
	陽陵泉	脾経	膝をたてて、腓骨頭の前下際

2. 陽虚

[症状] 全身及び局所の冷え、特に四肢末端が冷える。気温の低い場所に行くとともに

冷える。疲労倦怠感、自汗、小便清長、軟便。舌淡胖、齒痕、脈虚弱。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
関元	任脈	補陽	前正中線上で、臍下3寸
命門	督脈	補腎陽	第2・3腰椎棘突起間
加 失調している臓腑の特定穴			